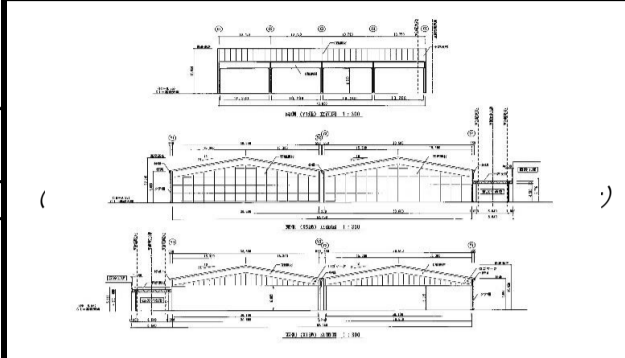


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トピー工業株式会社 豊川製造所 製品出荷場	階数	地上1階
建設地	愛知県豊川市穂ノ原三丁目26番1、30番1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	2人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,016時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年11月10日
敷地面積	204,643 m ²	作成者	高岸 誠
建築面積	2,826 m ²	確認日	2022年11月11日
延床面積	2,734 m ²	確認者	高岸 誠



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">30.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
			評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.7		
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-		
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能			-	-	-	3.0	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	3.0	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	3.0	-	-		
1.3 吸音										
1 吸音			-	-	-	3.0	-	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温			3.0	-	-	3.0	-	-		
2 外皮性能			3.0	-	-	3.0	-	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御										
1 湿度制御			3.0	-	-	3.0	-	-		
2.3 空調方式										
1 空調方式			3.0	-	-	3.0	-	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率			3.0	-	-	3.0	-	-		
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備			3.0	-	-	3.0	-	-		
3.2 グレア対策										
1 グレア対策			5.0	-	-	3.0	-	-		
3.3 照度										
1 照度			3.0	-	-	3.0	-	-		
3.4 照明制御										
1 照明制御			3.0	-	-	3.0	-	-		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質			3.0	-	-	3.0	-	-		
4.2 換気										
1 換気量			3.0	-	-	3.0	-	-		
2 自然換気性能			3.0	-	-	3.0	-	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	3.0	-	-		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能								3.4		
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性			3.0	-	-	3.0	-	-		
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	3.0	-	-		
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	-	-	3.0	-	-		
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-		
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性								2.8		
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数			0.3	2.4	0.33	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.42	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	2.0	0.42	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	2.0	0.17	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	-	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	-	-	-	-	-		
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備			0.1	3.0	0.19	-	-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	1.00	-	-	-		
3 電気設備			3.0	-	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	②		3.0	-	-	-	-	-		
5 通信・情報設備			3.0	-	-	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.4	4.0	0.48	-	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		大型トラックの搬入・搬出のしやすい空間を設置	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁や中間柱が無いので、空間自由に最大限使用できる	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	2.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	5.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性		内部仕様が無いので構造材などをへの影響なくメンテナンスが可能	3.0	5.0	1.00	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	-	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			高木など植栽を計画的に敷地に配置	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	
4 効率的運用				1.0	2.5	1.00	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内部仕様が無いので解体時構造材と上材の分別可能	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		膜構造により断熱材を使用していない	-	5.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮				0.5	2.9	0.50	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の未使用	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.6	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	従業員駐車場確保や搬入車待機スペースの確保	-	4.0	0.33	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.33	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.1	0.50	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		『光害がイライラチェックリスト』の一部を満たしており、広告物照明は無し	-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トピー工業株式会社 豊川製造所 製品出荷場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:30.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トピー工業株式会社 豊川製造所 製品出荷場

計画上の配慮事項	
総合	広大な敷地の中において、製品集荷場という点から工場内の製品を最終的に集め大型トラックにて運び出す事から工場及び外部への出入口位置を検討し建物配置を検討計画と致しました。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	大空間を形成しているため、大型トラックが中まで入る事ができ、計画的に電灯設備を設けて自由度の利く空間として計画を致しました。
Q3 室外環境(敷地内)	工業専用地域であります東側には自衛隊の訓練場があり、訓練場を挟んで住宅街がある事から、風に対してなどの影響が無い様な建物高さと致しました。
LR1 エネルギー	工場からの最終製品の出荷場としての機能を計画し、最小限のエネルギー利用となる様に計画を致しました。
LR2 資源・マテリアル	製品や作業に影響が出ない様な膜の仕様を検討計画を致しました。
LR3 敷地外環境	大型トラックや夜間作業時の照明等が敷地外へ影響でない様に東側は開口としない計画と致し、設備機器についても外部からの影響が無い物を使用する様に検討計画を致しました。
その他	